

# 松山市内中心部 坊っちゃん列車でまわる松山

子規や漱石、そして多くの人たちを乗せてガタコ、ガタコ。明治の昔から昭和半ばまで松山平野の人気者だった坊っちゃん列車が、21世紀の城下町に蘇ります。



現在の 道後温泉駅  
昭和28年頃、横河原線石手川鉄橋を渡る坊っちゃん列車



## 【坊っちゃん列車と夏目漱石】

「坊っちゃん列車」という呼び名は、夏目漱石の小説『坊っちゃん』に由来しています。この小説は、漱石が、松山中学校の英語教師として赴任してきた時の体験談をもとにして書いた物語とも考えられています。その中で、主人公の坊っちゃんが「マッチ箱のような」小さな汽車に乗って赴任先の中学校に向かうシーンがあります。その汽車こそが今でいう「坊っちゃん列車」なのです。

坊っちゃん列車の撮影ポイントは？  
松山市駅では、珍しい車両の転回が見られたり、大手町駅は市内電車の線路と郊外電車の線路が交差する全国でも珍しいスポット！



## ⑨ 子規堂

伊予鉄道松山市駅から徒歩約5分、松山ICから約6km  
松山市駅の南、末広町正宗寺境内にある子規堂は正岡子規の旧宅を模して建てられました。子規堂の内部には子規の遺墨や遺品が数多く展示され、境内には高浜虚子ゆかりの碑があり俳句の街松山ならではの風景…。また墓地に正岡家累代の墓があります。



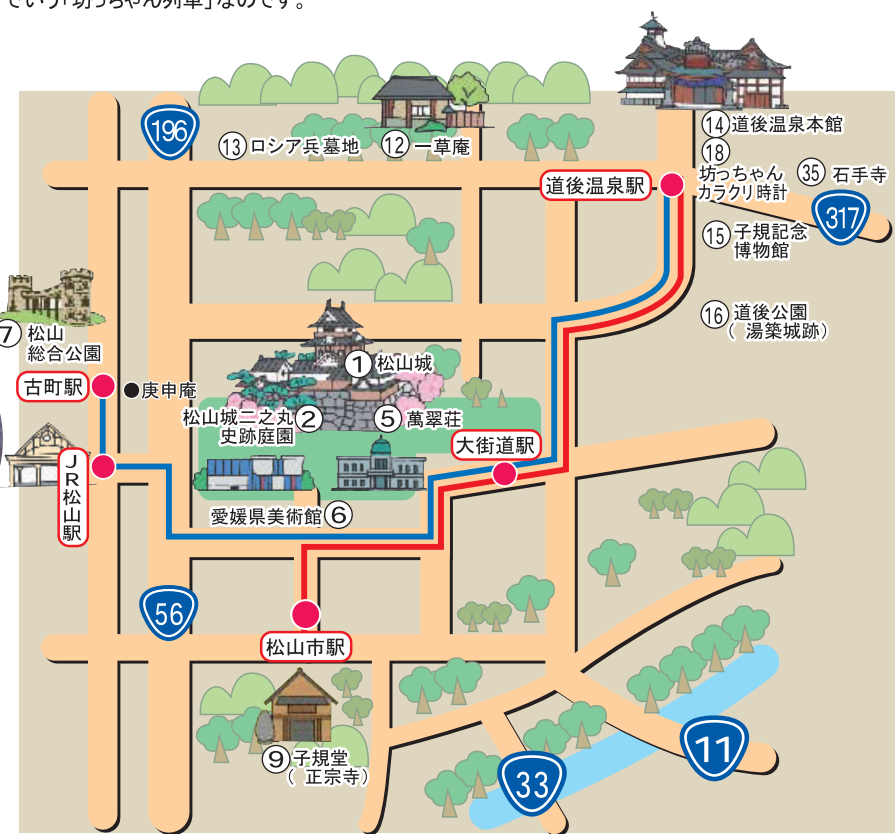
正岡子規句碑 (JR松山駅前)

子規が故郷の松山に帰った時に詠んだ句です。のびやかでゆっくりとした流れの中に、子規の故郷を思う気持ちが表現されているようです。



## ⑩ 大観覧車「くるりん」

伊予鉄道松山市駅すぐ、松山ICから約6km  
いよてつ高島屋の屋上にある大観覧車。昼は松山市内を一望でき、夜はイルミネーションがとても綺麗。松山の新しいシンボルになっています。



## ⑪ 大街道・銀天街

松山市駅から松山城のロープウェイ乗り場近くまで続く、西日本でも有数の規模の商店街です。



## ⑫ 一草庵

松山ICから約8km  
放浪の自由律俳人、種田山頭火(たねださんとうか)の終えんの地である。彼は、道後温泉の湯と酒を愛しました。



## ⑬ ロシア兵墓地

伊予鉄道木屋町駅から徒歩約15分、松山ICから約8km  
日露戦争の捕虜の多くが松山市に收容され收容所詰めの軍関係者の他、市民が厚く世話をしました。